

2022年1月13日

日本メドトロニック、日本初のハイブリッドクローズドループ (HCL) テクノロジー搭載 インスリンポンプ「ミニメド™770G システム」の販売を開始

日本メドトロニック株式会社（本社：東京都港区）は、基礎インスリン注入量を自動調整することでインスリン治療を必要とする患者の生活の質（QOL）向上に寄与することが期待されるテクノロジー「ハイブリッドクローズドループ（HCL）」を搭載したインスリンポンプ「ミニメド™770G システム」の販売を2022年1月20日より開始する。

ミニメド™770G システムは、日本初のハイブリッドクローズドループ（Hybrid Closed Loop：以下、HCL）テクノロジーを搭載したインスリンポンプ。独自技術である「スマートガード™オートモード」により、患者に合わせ自動で高血糖と低血糖の両方を予防、血糖値をコントロールし目標範囲に維持する手助けをするよう設計されている。

日本において、推定100万人以上の糖尿病患者がインスリン治療を行っておりインスリンを使用している糖尿病患者の中には血糖コントロールに対する身体的・心理的負担を日常的に強く感じている方が多くいる。

このミニメド™770G システムに搭載された「スマートガード™オートモード」は、患者の過去のインスリン注入履歴とリアルタイムCGMから5分ごとに得られるセンサグルコース値に基づいてシステムが注入する基礎インスリンを患者に適した量に自動で調整する。

食事の際には患者自身による追加インスリン注入が必要になるが、糖質量と血糖値の入力をボタン操作で行うことで、システムが推奨するインスリン量を計算し表示する。この機能により、血糖値が最適な目標範囲内にある時間（Time in Range）を最大化するため、日中だけでなく夜間も含め24時間、血糖値を目標範囲内に保つためのサポートをすることが可能となり、患者のQOL向上に大きく寄与するものと期待される。